

Ⅰ はじめに

“人生100年時代”と言われる中で、健康寿命の延伸に向けての取り組みが求められています。

高齢者の多様な課題に対応するため、「医療保険制度の適正かつ効率的な運営を図るための健康保険法等の一部を改正する法律」が令和2年4月1日から施行され、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」（以下、「一体的実施」とする。）が進められています。

「一体的実施」が開始された背景として、75歳になると医療保険の保険者が市町村等から後期高齢者医療広域連合に変わるため、保健事業の継続について課題がありました。

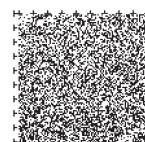
また、75歳以上の高齢者保健事業は後期高齢者医療広域連合が主体となって実施する一方で、介護保険の取り組みは介護保険の保険者である市町村が主体となって実施するため、健康状況や生活機能の課題に一体的に対応できていないという課題もありました。

そのため「一体的実施」は、市町村が後期高齢者医療広域連合から高齢者の保健事業を受託し、国民健康保険等の保健事業や介護保険制度における介護予防の取り組みと一体的に実施することで、効果的かつ効率的に高齢者一人ひとりの状況に応じたきめ細かな対応を行えるようにすることを目的として制度化されました。

国は令和6年度までにすべての市町村での実施を目標としており、本市では令和4年度から開始しています。

「一体的実施」を推進していくためには、保健事業、介護予防、健康増進等の業務を担当する部署間の連携を密にし、各部署で保有する健康診査や介護・医療に関するデータを分析し、健康課題を抽出・共有した上で、明らかとなった健康課題を保健事業や介護予防事業等に反映していくことが重要です。

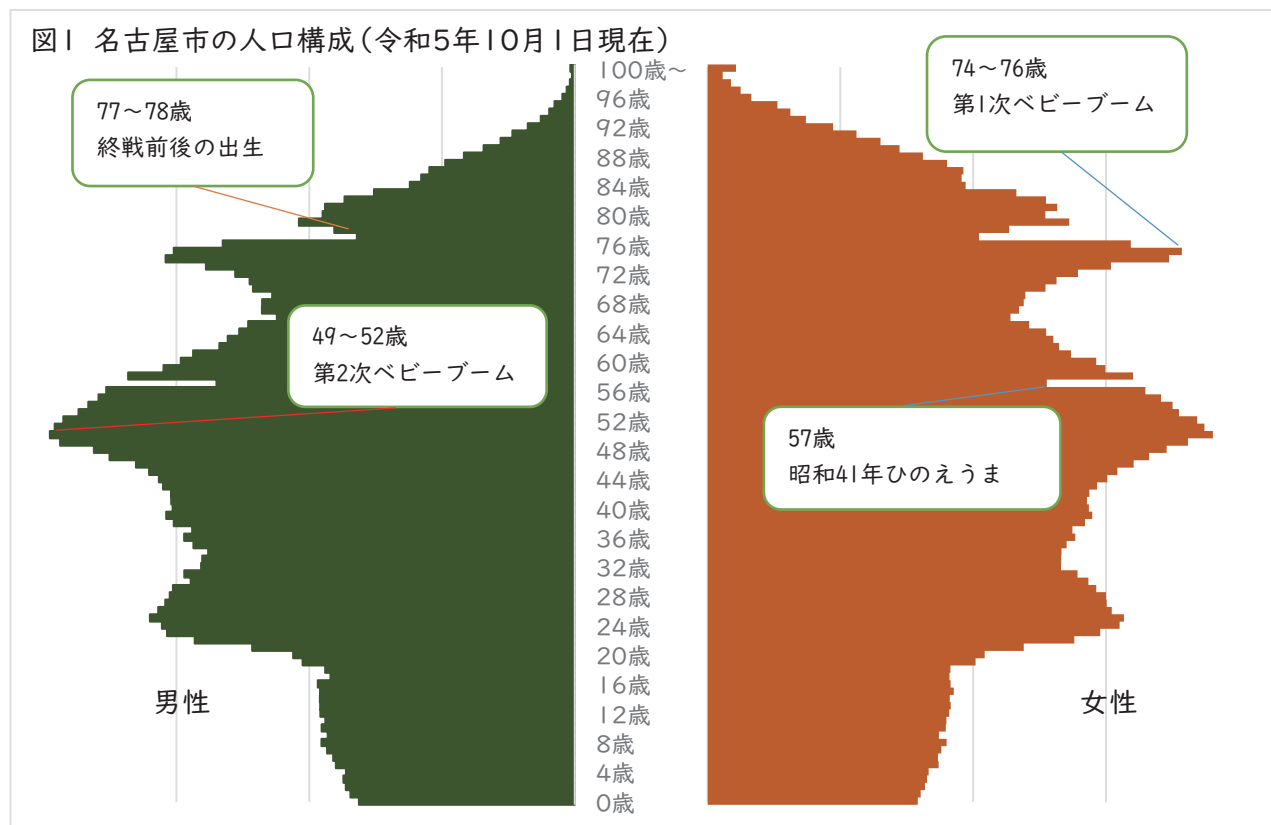
本書は、本市の高齢者の健康診査、介護・医療データを分析した結果をまとめたものです。本書が、名古屋市における高齢者の健康課題改善のきっかけとなりますことを期待いたします。



2 名古屋市の特性

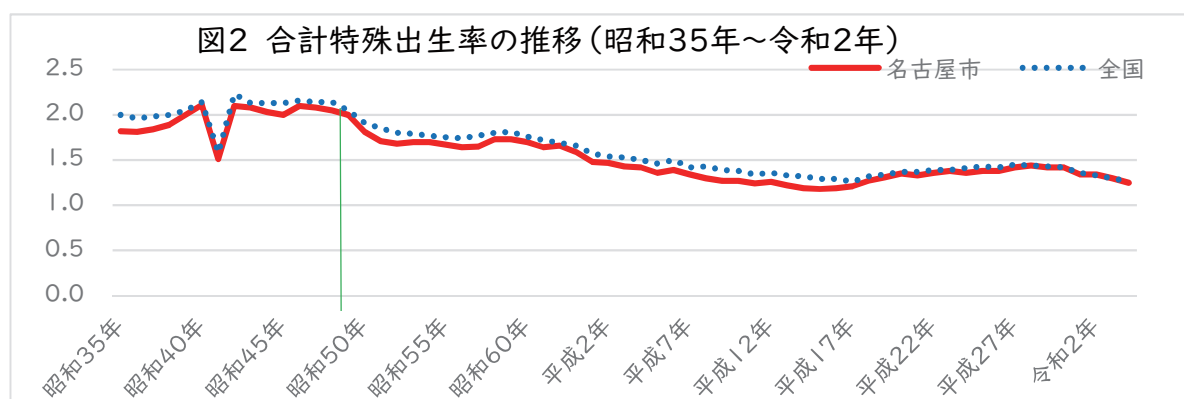
2-1 年齢別人口構成

名古屋市の年齢別人口構成を示します(図1)。昭和22～24(1947～1949)年の第1次ベビーブームと、第1次ベビーブームに生まれた女性が出産したことによる昭和46～49(1971～1974)年の第2次ベビーブームにより、日本の人口は一貫して増加傾向にありました。



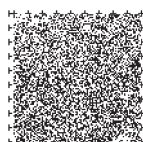
出典:名古屋市年齢別公算人口

しかし昭和50(1975)年代以降、出生率は減少傾向となり(図2)、現在20歳以下が占める人口割合は低く、第1次、第2次ベビーブーム世代の人口割合が突出しています。



出典:名古屋市統計年鑑・合計特殊出生率の推移

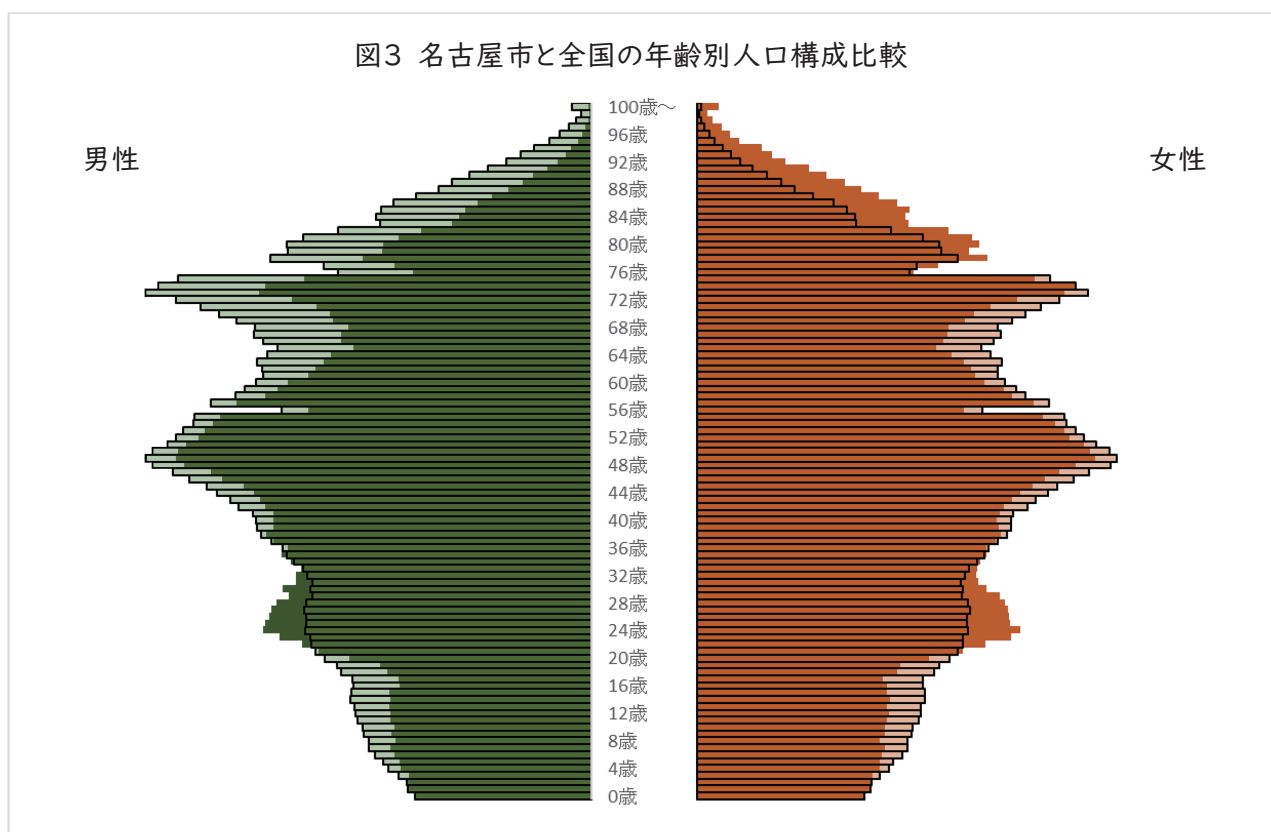
※合計特殊出生率とは15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの



2-2 全国、政令指定都市等と比較した名古屋市の人口構成の特徴

名古屋市の年齢別人口構成を全国と比較した人口ピラミッドを示します(図3)。男女別に名古屋市と全国の0歳の人口の棒の長さが等しくなるように調整し、名古屋市と全国の年齢別人口構成を1つのグラフに示しています。灰色太枠部分は全国の人口が多い年齢層、左側(薄い緑)は名古屋市男性、右側(薄いオレンジ)は名古屋市女性の人口が多い年齢層です。

60歳以上の人口比率は全国が名古屋市より高く、20歳代を中心とする世代人口比率は名古屋市の方が全国より高くなっています。現時点の20歳代が生まれた当時の合計特殊出生率は名古屋市と全国ではほぼ等しく(2ページ図2参照)、他地域からの流入による人口増と考えられます。



出典:総務省統計局統計調査部国勢統計課・人口推計

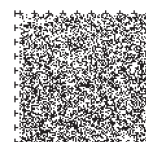
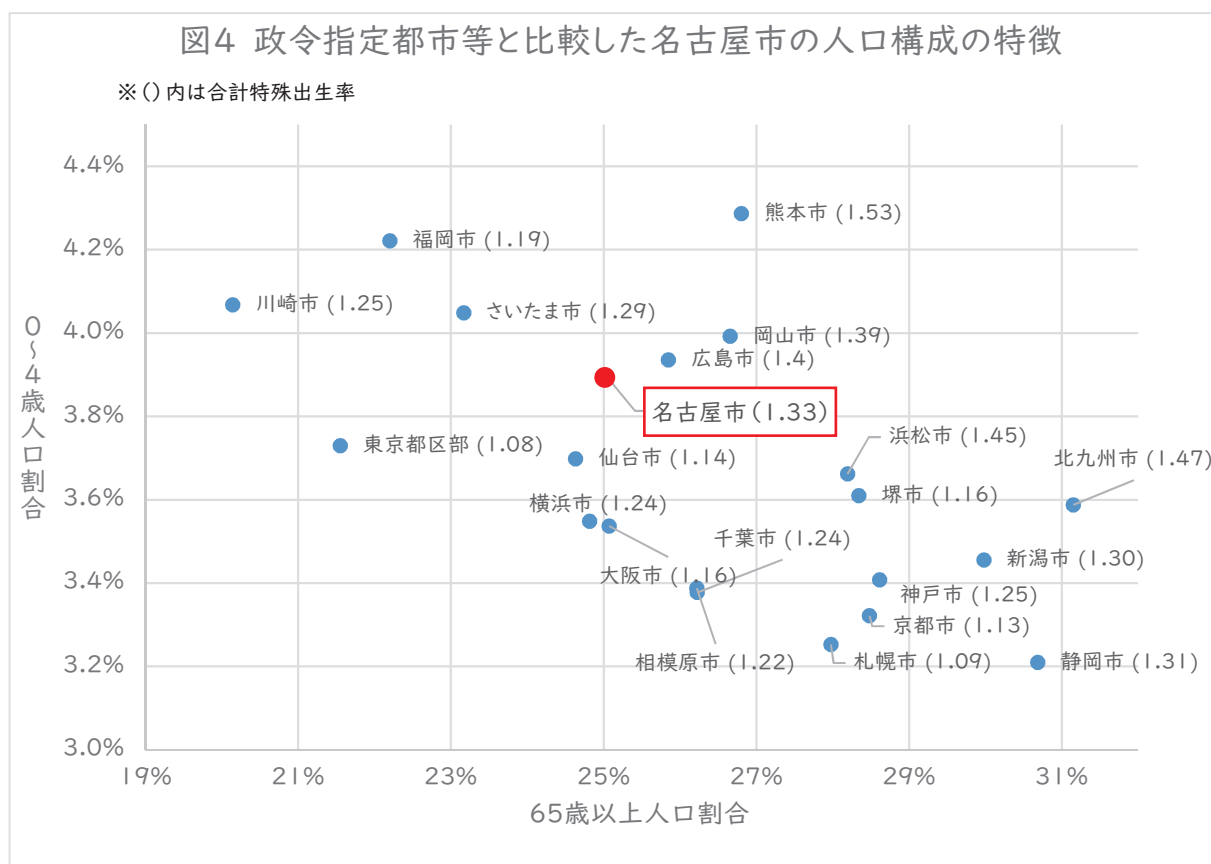


図4のグラフの縦軸は0～4歳の人口割合、横軸は65歳以上の人口割合です。各政令指定都市及び東京都区部（以下、「政令指定都市等」とする。）と名古屋市の少子高齢化の状況を示しています。また、グラフ中の政令指定都市等名の横にある数値は人口動態統計特殊報告による平成30（2018）年～令和4（2022）年の合計特殊出生率を示します。

政令指定都市等の0～4歳の人口割合は3～4%台で分布の幅は狭いですが、高齢化率は約20～30%と、都市により大きな差があります。名古屋市の0～4歳人口割合はやや高め、高齢化率は中位に位置しています。合計特殊出生率と0～4歳人口割合は必ずしも関連しておらず、人口の流入・流出による影響が考えられます。



出典：総務省自治行政局住民制度課・住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数調査（人口動態統計特殊報告）

2-3 人口構成の推移

名古屋市の人口構成の推移（平成22（2010）年、令和6（2024）年、令和22（2040）年推計値）を男女別に示します（図5、6）。名古屋市の人口は男女ともに、平成22（2010）年から令和6（2024）年にかけて微増しましたが、令和6（2024）年から令和22（2040）年にかけて徐々に減少すると予想されます。年少人口（0～14歳）が占める割合は平成22（2010）年から令和6（2024）年にかけて1%以上減少していますが、令和6（2024）年から令和22（2040）年にかけては男女とも0.2%の減少に留まります。一方、生産年齢人口（15歳～64歳）は減少を続け、高齢者世代である老年人口（65歳以上）は増加していきます。

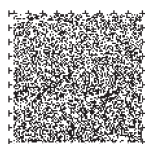


図5 名古屋市の人口構成推移予測（男性）

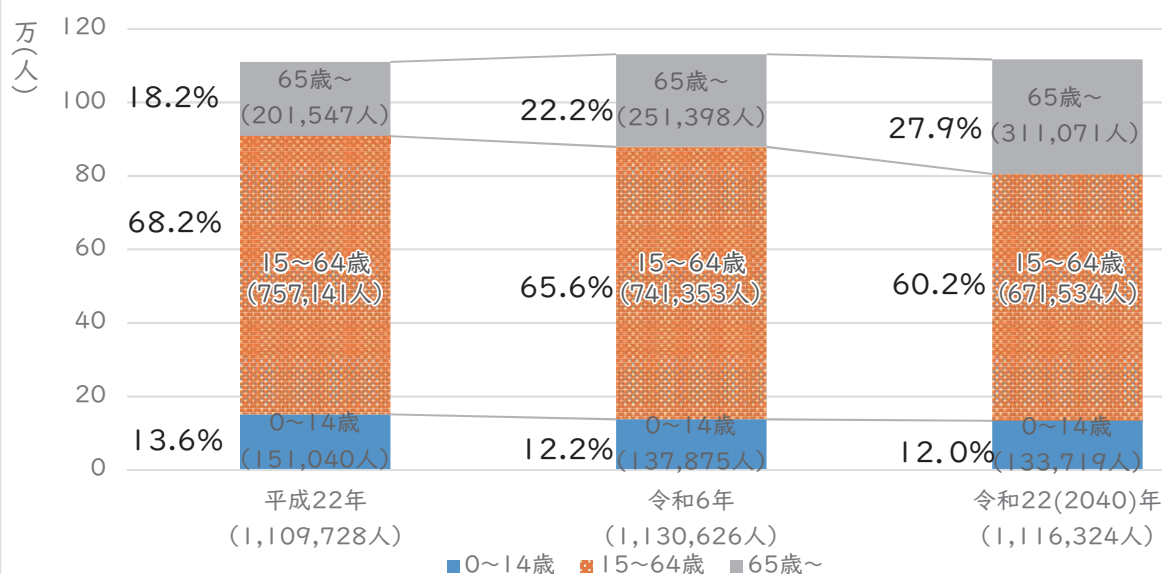
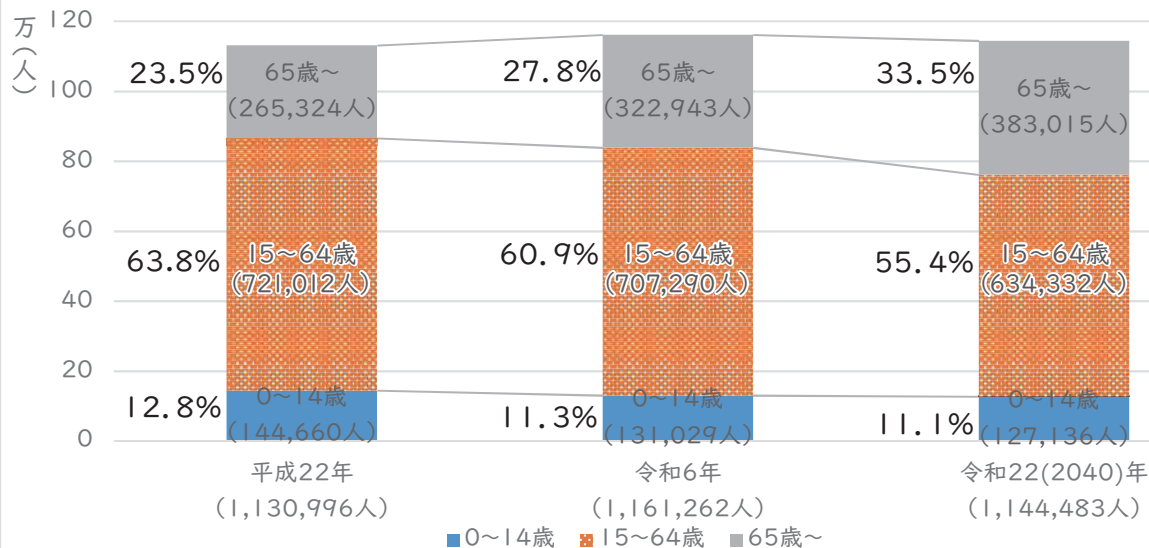


図6 名古屋市の人口構成推移予測（女性）



出典:名古屋市将来人口推計

※図中の数字(%)は、四捨五入による端数を調整していないため、内訳と計は必ずしも一致しない。

2-4 平均寿命、健康寿命

政令指定都市等の平成22(2010)年と令和2(2020)年の男女別平均寿命を示します(図7、8)。名古屋市の平均寿命は10年で男性2.1歳、女性1.1歳延びていますが、政令指定都市等の中では名古屋市の平均寿命は高くありません。

